

科目名	失語症 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 通年
【授業の目的・ねらい】 失語症について医学的観点からその基礎となる領域について理解できる。							
【実務者経験】 倉敷市立市民病院にて、言語聴覚士として失語症治療に従事。							
【授業全体の内容の概要】 失語症について基礎知識と症状、タイプ分類などが理解できる。失語症の方との関わり方を実践的に身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症についての基礎的な知識を習得できる。言語症状の把握や有効なコミュニケーション手段を考え、失語症者の心理的問題を浮き彫りにすることができる。心理的なアプローチに加え、言語訓練に必要な評価や高次脳機能障害、家族関係などの問題も検討することができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	失語症の定義、失語症状概要、言語野						
2	失語症研究について、失語症の原因疾患について						
3	言語症状について、近縁症状、随伴しやすい障害						
4	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、健忘失語						
5	超皮質性失語、全失語、交叉性失語、純粋型						
6	失読、失書、原発性進行性失語						
7	失語症の評価・診断、情報収集のやり方、評価サマリーの作成						
8	失語症評価実践（SLTA）VTRorお互いに実施						
9	言語治療提供、理論と技法、言語治療計画、急性期～維持期の訓練・援助						
10	語彙訓練、構文訓練、文字訓練、発語失行の訓練について						
11	重度失語症の訓練、心理・社会的問題への対応						
12	AACについて、教材作成について						
13	後天性小児失語症、失語症まとめ						
14	失語症確認テスト						
15	テスト振り返り、まとめ						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 失語症学』医学書院							
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習、検査の練習や訓練計画、訓練材料の準備が必要です。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 定期試験の結果を100点満点として成績を評価する。 60点以上の場合に科目を認定する。							